

第6回検討委員会 各委員の意見（分類ごと）

分類	意見（要約）
一体的整備に関するもの	3施設が一緒になるため、単なる美術館、図書館、文書館だけではなく、例えば気軽に訪れることができるなど、そこにプラスアルファで何かを加えた拠点とするのが重要なのではないか
	3施設が一緒になったからこそ生まれる新しい魅力や、3施設が一緒にならないとできないようなアクティビティを提供できる拠点にしてほしい
	文書館と美術館を一緒に整備することは、栃木県の歴史等に触れる機会をつかむ、大事な機会だと思うので、成功させてほしい
整備地に関するもの	県立博物館や、子ども総合科学館があるから、最も拠点を作るのにふさわしい場所であることを明確にしたほうがよい
	建設予定地は、住宅が多い地域であり、その地域の中で異空間感が演出できるように、日光杉並木、子ども総合科学館等をつなぎ合わせ、生かせる拠点としてほしい
整備地へのアクセスに関するもの	県民利用者は車で移動することが多いため、駐車場が整備できる広い立地はすごく良い。他方、県外・海外の人にとっては駅からのアクセス性が重要であるため、車以外の駅からの交通手段を強化するために市と県が将来にわたり連携・協力することが必要不可欠である
	県外の人が栃木県や宇都宮市に来る際に、せっかくなのでL R Tへの乗車を考える人も多いように思われるため、例えば、L R Tから拠点までを循環バス等で接続すると良いのではないか
	交通アクセスについて、L R Tとどのようにつないでいくか。L R Tとバスを連携させる、拠点までの約2 kmの距離を楽しく歩ける歩道を整備する等について、考える必要がある
	L R Tの停留所から拠点までの交通アクセスについては、今後、検討いただきたい。自動運転のシャトルバス、新しいパーソナルモビリティやキックボードのシェアリングサービス等色々手段があると思う
目指す姿に関するもの	「開く」、「つなぐ」、「育む」の3つの視点に沿った施設として欲しい。特に、「開く」では、全ての県民に開かれて興味を引き、訪れてもらうことが大切である。今後も、設計等の段階において、様々な意見を聞きながら、柔軟に対応してほしい
	同じ日光街道沿いにある施設と連携することで、日光街道が「文化と知」の街道となるとよい。整備地は、周辺に住宅が多いため、地域に開放された施設となるとよい
	「開く」「つなぐ」「育む」の3つのコンセプトは非常に明るい未来につながる。一方通行ではなく、色々な人が可能性を持つことができ、また、様々な関心を持つことができるということで、コンセプトとして非常に良い
	大谷石のような栃木県を代表するものを使用し、県民にそれを知ってもらいたい
	「文化」も「知」も、裏側での地道な努力が必要なことで、生み出すためには苦しみを伴うものであるため、その側面があることを忘れずに、努力していかなければならない
	次世代に「文化と知」を継承するというのがコンセプトだと思うが、「文化と知」という言葉自体が抽象的であるため、継承する際には、もう少し具体的に伝えられると、若い世代も理解して、さらに次の世代に継承できる 「開く」「つなぐ」「育む」は、万人に値する施設を作るという難しい課題である。理想的な構想案ができて、今度はどのように実現していくかは、そこで働いている人々の見識によるものが大きい、期待している

第6回検討委員会 各委員の意見（分類ごと）

分類	意見（要約）
<p>目指す姿に関するもの</p>	<p>視覚障害者や目の悪い人のために、バリアフリー対応に力を入れていただいているが、郵送対応や、拡大器の設置等、デジタルを活用して対応してもらいたい</p> <p>全国で例を見ない3施設、美術館、図書館、文書館の複合施設として、目に見える形で相乗効果を発揮して、そしてまた県、市町の文化振興にも貢献すべく役割がある</p> <p>栃木県の誇りとなる「文化と知」の創造拠点として海外や全国に広く栃木の文化と魅力を情報発信する役割を担い、また新たな県独自の「知」を生み出す文化交流の拠点にするべきである</p> <p>「文化と知」の総合拠点とするのであれば、書店の誘致や、ミニシアターで作った映画の上映など、もっといろいろな要素を足していってもよい。本当に栃木の文化の発信拠点となれるように、今後機能を具体的に考えられればよい</p> <p>「創造」とは0から1を生み出すことだけでなく、今ある既存の要素をたくさん組み合わせることで、新しいものを生み出すことも「創造」である。多くの方が関わって、育みながら、栃木県の文化、芸術の底上げすることで、栃木県の魅力も上がると思う</p> <p>栃木県のシンボルになる、世界レベルの良いものができることを願っている。公共施設は作ってから、いかに生かすか、発展させていくかが重要であるため、100年先も県民の誇りとなる施設としていただきたい</p> <p>建物は古くなったら壊すのではなく、直していくことの継続であり、公共施設も少し長い目で見て、完璧なものを作ろうと思わず、継続することに重点を置き、事業を続けていくと良いのではないか</p> <p>栃木県民として、県内外の方が来訪した時に、拠点に来て、栃木の素晴らしさを感じてもらいたい</p> <p>図書館と書店はイコールではないが、図書館で本に出会って、そこから書店で買ったりするような、入口的な存在になっている。大型書店の閉店等、寂しいニュースが続く栃木県・宇都宮市の本事情なので、拠点整備が明るいニュースになってほしい</p> <p>拠点が立ち上がるまでは最大10年かかる計画で、「図書館は成長する有機体である」という言葉の通り、その間に社会が変化していたり、技術が進化しているはずだが、都度最適化を図りながら進め、作るプロセスも県民と一緒に進めていただきたい</p>
<p>県立館の特徴に関するもの</p>	<p>県と市町の連携が今後どのように果たせるかが重要である。文書館は、人材や維持管理の観点から市町立の新設が難しい。図書館、美術館については、県立と市町立の役割を分けていくべきで、美術館には県ゆかりの調査研究を期待したい</p>
<p>建物（建築）に関するもの</p>	<p>今は多くの人が建物の魅力や空間の居心地よさを重視しており、その辺りを考慮した建物としてほしい</p> <p>次世代を担う若者が訪れたい魅力的な建築物とし、「文化と知」を生み出せる具体的な拠点にしてほしい</p> <p>3施設が一体となり、魅力的かつ印象的で、人々がまた来たい、ゆっくりできる建築となるよう考慮してほしい</p> <p>デザインについて、おしゃれな側面も必要だとは思うが、機能面の問題が生じないよう、ユーザー目線で確かな機能面できっちりした施設を作ってもらいたい</p> <p>建築で話題になり、建築自体が人々を呼び込むような施設を作っていただきたい</p> <p>バリアフリーを可能な限り徹底して、障害のある子供たちができるだけ何回も行けるような施設にして頂きたい</p>

第6回検討委員会 各委員の意見（分類ごと）

分類	意見（要約）
<p>建物（諸室） に関するもの</p>	<p>「世界に誇れるもの」を見据え、3施設が持つそれぞれの役割はもちろん、それらに付随する飲食・休憩スペース・自然環境についても、遊び、楽しさといった観点を持ちながらデザインしてほしい</p> <p>文書館の占める面積が他館と比べてあまりにも小さい印象を持ったが、バックヤード、十分な収蔵スペースを今後に向けて確保するため、各施設の意見を聴取してほしい</p> <p>拠点での企画の実施については、講堂が大きな意味を持つ。大きなスペース、いろいろなことができる可能性のあるスペースが必要ではないか</p> <p>広さについて、栃木県が誇る、今後何十年も先の将来を見据えた計画で各施設の想定される面積を近隣施設や、近年の建設事例を参考にするのであれば、その中の最大値を取り余裕を持った計画にするのが各施設にとってよい</p>
<p>館相互の連携 に関するもの</p>	<p>3施設がうまく共存できる体制を作ることが重要であるが、各施設様々な問題があると議論の中で出ていたので、それらを上手く解消できるように、今後の計画で3施設の間での綿密なコミュニケーションをとってほしい</p> <p>3施設でまず人を知る、仕事を知る、業務を知る、現状を知る、ということからお互いに行えることを行い、情報発信することで、拠点の認知度は上がるのではないか</p> <p>魅力ある栃木を作っていくにはいけない中で、施設を作ることによる魅力のアピールに関連し、3つの施設をどのようにコラボするのが良いか、新たな視点や感覚で見直してみると、プラスオンされる何かがあるように思う</p> <p>栃木県が誇る「文化と知」を発信するためにも、例えば、日光東照宮や大谷石等の、栃木県にゆかりのあるテーマを選定して、3施設合同で調査・研究を進めて、共同の展示等ができるとうい</p> <p>図書館、美術館、文書館が一体となって、栃木の魅力発信に寄与してもらえれば、本当に素晴らしい</p>
<p>教育機関との連携 に関するもの</p>	<p>教育機関との連携は教員不足や、働き方改革等の学校現場の状況も踏まえた持続可能な手法となると、教育機関も利用しやすくなる</p> <p>美術館では美術以外にも栃木ゆかりの作家や社会の教科書に載っている絵の学習等、教科横断的な学習に利用できるもので、教育機関も利用しやすくなる</p>
<p>デジタルの利活用 に関するもの（留意点）</p>	<p>3施設をデジタルで融合させることは不可能ではない。企画運営部門のような全体を統括するような部門で専任の職員を雇い、県民が日常的に遠くからでも利用できる仕掛けを作り、リアルとデジタル双方の利便性を両立させるとよい</p> <p>講演会等を開く場合に、専門スタッフがいて、使用料を払えば、即座に動画配信等ができる施設だと、利用者側としては非常に使いやすい</p>
<p>現場との連携に関するもの</p>	<p>建築は空間の支配する空気感が大切であり、効率性の向上だけでなく、各専門家と連携して進めるのが大切である</p> <p>この施設が、文化振興によるまちづくりの先導的な役割を担う為に、今後宇都宮市や国、県、あるいは事業者と関係方面との間で、文化とまちづくりの調整を進めるべき</p> <p>整備後に拠点の中核を占める次の世代が拠点で気持ち良く仕事ができるように、今後、連携や情報交換を緊密にいただき、次の世代にバトンをつないでほしい</p>

第6回検討委員会 各委員の意見（分類ごと）

分類	意見（要約）
利用促進に関するもの	交通事業者と連携・調整し、誰もが気軽に訪れる施設になるとよい
	県内全域から、遠くからでも来たくするような、魅力的な施設を作る必要があるため、長時間滞在できるような仕掛けとして、施設全体に「滞在する楽しさ」を作るのがよい
	ライトな利用者からすると、あまり専門性を強調しても、敷居が高くなるため、できれば敷居が低くなるような、来館しやすいような取組を3施設で企画するのも良い。
	県の姉妹都市と連携したイベントや、展示等を行うことができれば、県外からの利用促進に繋がる
	アンケートの結果、6割の人が「文化と知」の創造拠点を知らない状況のため、各施設がこれからどのような方向に向かうのかを少しずつ打ち出し、県民が少しでもわくわくするような発信をしてくと、機運醸成につながるのではないか
	アンケート結果を見ても気軽に利用したいという意見が総数の半分以上のため、それくらい気軽に行けて楽しめて利用できる施設が理想だと思う
集い・憩い・交流に関するもの	実際には難しいかもしれないが、美術館やレストランなど施設内でアルコールが楽しめると思う
管理運営に関するもの	ハード面のユニバーサルデザインだけでは限度があるため、補足的な人的な支援や援助が必要であり、管理運営についてはその点も配慮してほしい
	図書館司書は代名詞、図書館の顔的な存在であるため、しっかりと専門の人を配置してもらいたい
	時代に対応し常に3施設の機能を発揮するには、栃木県を本当に理解する人材を育成する必要があり、全県の関連施設職員の底上げにも直結するため、コア業務を担う専門職員（司書、学芸員、アーキビスト）はぜひ県の正規職員として配置してもらいたい
	企画運営部門と各施設のコア業務の役割分担について、企画運営部門と各施設の専門職の人たちがプロジェクトに参画し、一緒に作りあげていく体制が望ましい
	3施設のいずれにおいても、専門職員の力が大きいので、コア業務を実施する専門職員の適切な配置をお願いする
	コア業務を担当する職員が、業務に専任できるように、キッズルーム等のアメニティ部分とコア業務とを切り離す必要がある
	管理運営について、3施設を様々な人に楽しんでもらうためには、企画運営部門にプロが必要である。作ったけれども中々集客できない、訪れたことがないではもったいない
	スタッフについて、嘱託の職員をたくさん雇うのではなく、コア業務、統括運営などに正規職員を配置し、長い目で見て計画を立てられるスタッフを育成してほしい
美術館、図書館、文書館にまた行きたいと思ってもらえる施設を作るために、中身が重要である。ぜひ良い人材によって運営してほしい	
事務局では、検討委員会での議論や県民や議会の意見を踏まえながら、来年度から、より具体的な計画の策定や推進のための組織づくりを行ってほしい	

第6回検討委員会 各委員の意見（分類ごと）

分類	意見（要約）
構想（案） に関するもの	効率性の向上も重要ではあるが、基本理念の冒頭には理想を掲げてほしい。今回は施設的に課題を抱えている3施設に焦点を絞って「文化と知」の創造拠点として計画・構想を立てる、というような前提が記載されていてもよいのではないか
	コンセプトは、非常にうまくできていて、全て網羅していて、素晴らしいと思っているが「ユニバーサル」のような言葉に酔いしれてしまう恐れがある
その他	様々な専門分野からの意見を取り込むこと自体が「開く」「つなぐ」「育む」につながっているようだ。学生などの若い人たちは、ワークショップに参加することができ、大変良い経験になったのではないかと
	実際に工事が始まり、完成したというニュースを見たり聞いたりしたら、大変誇らしく思うだろう
	現状の3施設をあと10年程度利用することになるため、新しい建物ができるから良いではなく、現在の施設も改善できることは改善して、県民が利用しやすいようにしてもらいたい
	これからまだまだ時間がかかって大変だとは思いますが、色々なことを一緒にできたら良いと思っている